

論文・総説

各論 26 「片頭痛・慢性頭痛治療薬」

Dr.石崎公郁子

シリーズGノート まずはこれだけ！内科外来で必要な薬剤

—自信をもって処方ができる、自家薬籠中のリスト—：208-217, 2023年4月20日

頭痛治療戦略の実際「反復性群発頭痛の治療」「慢性群発頭痛の治療」「インドメタシン反応性頭痛の治療のコツ」他

Dr.石崎公郁子

頭痛治療薬の考え方, 使い方—改訂3版—：2024年3月1日

学会発表

【指定講演】

「痙縮に対するボツリヌス療法における現状と課題について」

合同シンポジウム～脳血管障害のリハビリテーション治療戦略

Dr.田丸司 山川春樹 石崎公郁子 田丸佳子 田中久貴 OT 戸嶋和也

第60回日本リハビリテーション医学会学術集会 2023年7月2日

「ボツリヌス痙縮治療の到達点、当院での経験と考察」

Dr.田丸司

第10回日本ボツリヌス治療学会学術大会 2023年9月23日

「一次性穿刺様頭痛と貨幣状頭痛：診断と治療」～改めて学ぶ頭痛学16

Dr.石崎公郁子

第51回日本頭痛学会総会 2023年12月2日

【一般演題】

「運動学習の定量化によるMCIの判別変数としての可能性」

OT 戸嶋和也 一寸木佑 高戸了 Dr.田丸司 森田良文

リハビリテーション医療DX研究会 第1回学術集会 2023年4月22日・23日

「被殻出血患者における視床皮質路走行領域の損傷度を用いた深部感覚障害の重症度判別の検討」

PT 澤島佑規 矢部広樹 足立浩孝 田中善大

「中殿筋への運動療法と電気刺激療法の併用により股関節外転筋力と歩容の改善を認めた大腿骨転子部骨折症例」

PT 小林広空 伊藤良太

第 31 回 愛知県理学療法学会 2023 年 5 月 14 日

「血液ガス分析装置による一律な透析液管理方法の検討」

CE 伊藤嘉規 栗田裕也 平野慎

第 68 回日本透析医学会学術集会・総会 2023 年 6 月 17 日

「失調性ディサースリア患者に対し日本語版 Voice Handicap Index を活用し、声の QOL 向上を試みた一症例」

ST 平野智帆

「延髄外側梗塞患者における食塊の食道入口部通過側の検討～球状バルーン引き抜き抵抗にて評価した症例～」

ST 大和知佐 増木詩織 PT 伊藤良太

第 24 回日本言語聴覚学会 2023 年 6 月 23 日・24 日

「脳卒中後症例の自動車運転可否予測に影響を与える評価変数の検討」

OT 小林幹太 鷲見香穂 猪飼大二郎

第 60 回日本リハビリテーション医学会学術集会 2023 年 6 月 30 日

「重度に下肢運動機能低下をきたした被殻出血患者の回復期リハビリテーション病院退棟時の歩行自立度予測」

PT 澤島佑規 矢部広樹 足立浩孝 田中善大

第 21 回日本神経理学療法学会学術大会 2023 年 9 月 9 日

「四肢可動困難にて介護度が高い状態で自宅退院が実現した一症例」

Ns 小田淳一郎 田中文 熊由美 小笠原広実

「サルコペニアの悪循環に陥った利用者への看護～生き生きとした生活を取り戻すまで」

Ns 武藤愛美 今井志保 清水彩夏 小笠原広実

リハビリテーション・ケア合同研究大会 広島 2023 2023 年 10 月 26 日・27 日

「CI 療法後の上肢機能および使用感覚に対する 12 か月間の経時的変化について」

OT 野口貴弘 溝脇菜緒 山中信人 戸嶋和也

「弛緩性の重度上肢麻痺に対して電気刺激療法とロボット療法を組み合わせた症例報告」

OT 鍋島汐里 山中信人 溝脇菜緒 小林未奈 野口貴弘

「通所リハビリテーションにおいて ADOC を活用して目標共有した 3 症例の報告」

OT 森佐知子 川口悠子 林奈美

「ADOC-H を用いた麻痺側上肢使用の目標設定方法を症例の効力予期と結果予期を踏まえて工夫した一例」

OT 小林由衣 川口悠子

「運動学習の定量化による MCI の判別モデルの検討」

OT 戸嶋和也 一寸木佑 高戸了 Dr.田丸司 森田良文

第 57 回日本作業療法学会 2023 年 11 月 10 日～12 日

「リハビリテーション看護の視点でとらえるための看護カンファレンスシートの開発」

Ns 小笠原広実

NPO 法人日本リハビリテーション看護学会 第 35 回学術大会 2023 年 11 月 20 日～12 月 20 日

優秀発表賞 受賞

リハビリテーション看護では、患者様のその人らしい生活や思いを尊重し、新しい生活を前向きに作り出していけるよう支援している。問題点のみに目を向けるのではなく、全人的にとらえる看護カンファレンスの活性化を目指してツールを開発した。他病院でも同様に改善の方法を模索しているなか、当院の独自のツール開発を認めていただいた。

「Quantification of motor learning of finger dexterity by a discriminant model of mild cognitive impairment」

Kazuya Toshima, Yu Chokki, Toshiaki Wasaka, Tsukasa Tamaru, Yoshifumi Morita,

34th 2023 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science (MHS2023),
MA2-1-4 Nov.20,2023, Ngoya University

「Quantification of Motor Learning of Finger Dexterity by a Discriminant Model of Mild Cognitive Impairment」

Kazuya Toshima, Yu Chokki, Toshiaki Wasaka, Tsukasa Tamaru, Yoshifumi Morita,

2023 Japan-Poland International Workshop on Technologies supporting rehabilitation and medical services, Dec.4-6,2023

「手の巧緻動作による運動学習の定量化から認知機能低下を判別するモデルを提案する」
このタイトルで 2 つの国際発表を行った。11 月は、主に手の巧緻動作による運動学習の定量化方法に焦点を当てた発表を行った。12 月の発表では、定量化された結果から認知機能低下を判別するモデルの構築について述べている。2 つの発表を通して、名古屋工業大学と共同研究で行っている運動学習から認知機能低下を判別する提案手法の可能性を明らかにした。

「ADOC-H を用いた複合介入が生活内での麻痺手使用の一助となった症例への介入」

OT 岩上佳央 川口悠子 小林由衣

「ADOC を使用した目標設定と介入により受傷前と比べて退院後生活の活動量が向上した症例」

OT 奥山莉帆 川口悠子 小林由衣

第 22 回東海北陸作業療法学会 2023 年 12 月 10 日

「回復期 MSW が関わる加算算定項目のモニタリングとソーシャルワーク業務について考察」

MSW 沖和典 角田奈美 安井絹代 櫻木英可 草野弘子 古屋輝 澤田昭宏

第 18 回愛知県医療ソーシャルワーク学会 2024 年 2 月 10 日

「回復期リハビリテーション病棟退棟 3 ヶ月後の各日常生活動作の自立度低下に関わる因子」

PT 澤島佑規

回復期リハビリテーション病棟協会 第 43 回研究大会 in 熊本 2024 年 3 月 8 日・9 日

「回復期リハビリテーション病院退院後の健康や幸福と生活遂行能力および作業満足度との関係」

OT 川口悠子 PT 澤島佑規 矢田悠樹 OT 戸嶋和也 PT 伊藤良太

第 9 回日本臨床作業療法学会学術大会 2024 年 3 月 10 日

優秀演題賞 受賞

当院の教育支援室の取り組みとして自宅退院された患者様を対象に退院 3 か月後に送付している「退院後アンケート」から患者様の QOL(生活の質)・ADL(身の回りの動作)・ADOC(患者様の希望する作業)の関係性を分析した。その結果、退院後の患者様の QOL には、ADL に加えて「患者様が希望する作業」の満足度が媒介していることが分かった。今後も、回復期リハビリにおいて、患者様が身の回りのことをできるような支援にくわえて希望する作業の聴取や支援に尽力していく。

研究会活動

「併存症としての認知症」～認知症があってもリハビリができる関わり

Ns 中西千江

「患者の気持ちを大切にされたチーム医療とは」

Ns 中野夏菜 向後千紗 佐藤和加子 熊由美 小笠原広実

第 13 回コンプリヘンシブ・リハビリテーション懇話会 2023 年 7 月 29 日

「移乗動作に介助を必要とし介助用リフトを使用した脳出血片麻痺症例」

PT 前川智哉

「Pusher 現象に対するアプローチで麻痺側の振り出しが改善した症例」

PT 鎌倉美侑

2023 年度 海部地区支部症例検討会 2023 年 11 月 26 日

講演等

「女性と片頭痛～ライフステージに合わせた新しい治療のすすめ方～」

Dr.石崎公郁子

頭痛診療の病診連携を考える会 2023年7月12日

「知っていますか？脳卒中のこと」

Ns 今井志保

蟹江町民生委員協議会 2023年9月15日

「パーキンソン病／レビー小体型認知症の薬物治療について」

Dr.田丸司

緑区薬剤師会 2024年1月30日

メディア掲載

「Xマスの調べ リハビリの励みに～弥富の病院でコンサート」

OT 小林幹太 小林遼太

中日新聞 朝刊（尾張版）2023年12月23日

弥富市神戸5の偕行会リハビリテーション病院で21日、クリスマスコンサートがあった。リハビリに励む患者たち約80人がクリスマスソングに耳を傾け、手拍子しながら楽しんだ。同病院では脳卒中のほか、足や腰のけがなどで思うように体を動かせない人たちが入院しながらリハビリに励んでいる。日ごろのストレス緩和や治療を続ける活力の維持につなげてもらおうと病院側が企画した。

この日は、職員が「上を向いて歩こう」のほか、「ジングル・ベル」や「サウザンアイランド」など、馴染みのある曲を演奏した。小林幹太（27）と小林遼太（27）の2人が篠笛を吹いたり、リズム良く太鼓をたたいたりして会場を盛り上げた。（森雅貴）

Xマスの調べ リハビリの励みに 弥富の病院でコンサート



和太鼓をたたく小林幹太さんと篠笛を吹く
遼太さん＝偕行会リハビリテーション病院で